

人材大国“日本”

～『世界の学校』～

TEAM ちりも

恒屋、西野、戸沢、宇敷、須田、三友

《目次》

1. 国家像……………p.2
2. 教育の問題点……………p.4
3. TEAM ちりつも 重点政策……………p.7
 - 寺子屋制度導入……………p.8
 - 選択実習制度……………p.13
 - 社会人留学支援……………p.17
4. 予算……………p.25
5. 終わりに……………p.27

人材大国“日本”

～『世界の学校』へ～

30年後を考えるとどうしても、グローバル化という言葉は避けて通れない。私たちは10年後の予算を考える上で、人材の国際化が必要なので、英語を中心とする語学力の強化は図られるべきだ。さらに開かれた社会だからこそ“日本”を意識することが必要だと考えた。これは国が価値観を規定しないので、多種多様な意味を孕む。

今、社会では人と人との現実世界での繋がりが希薄である。国際化していく社会で少年期から互助の精神を育むためにも、私たちは地域共同体で、人と人の非文字教育の再評価をしていかなければならないと感じた。

また、学力低下の問題が語られるようになった。日本は、一人の教師が大勢の生徒に知識を与えるという明治維新以来の教育のシステムが続いている。国際化に対応し、“日本”を意識することができる人材を輩出するには時代に沿った形での教育制度の構築が必要だ。義務教育の時点で**文字教育**としての**基礎力**と**非文字教育**としての**基礎的素養**を体得していけるようなシステムづくりを目指す。

そして、冒頭で述べたように日本を意識しつつ、多様な価値観を身に付けるためにも一定の期間実習を義務化するという政策を考えた。

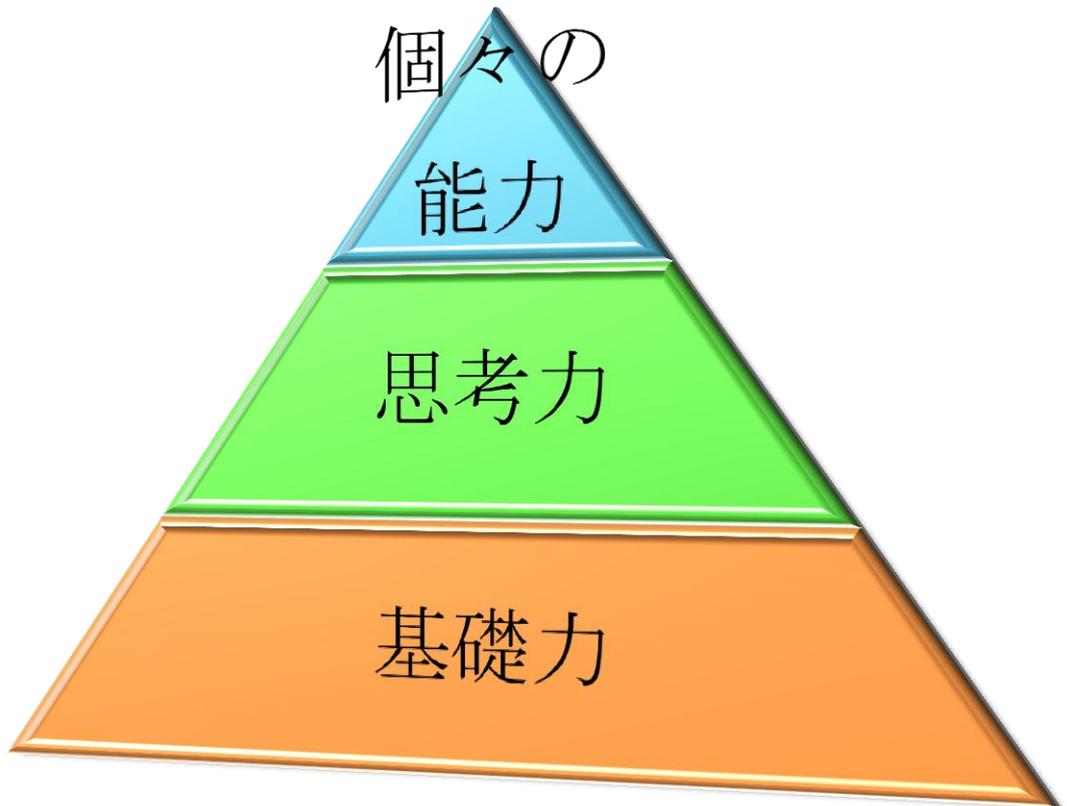
もちろん学校教育で外国語、第二外国語の習得も目指すが、学生時代に身に付ける基礎的な語学力は、企業に就職し、国際化した社会に出てから求められる力はより高い段階にあると考えられる。そこで、社会人になっても留学がしたい人はできるような環境づくりが急務であると考えた。故に、そういった人の援助をできるような政策を打ち出すこととした。

義務教育で基礎力を身に付け次の段階への足場作りをする。高校で、今まで培ってきた基礎力の下、応用力の精度を上げていく。そして、最終的には大学卒業までに個々の能力を生かしたエキスパート人材の輩出を想定している。

最終的に《**国家は人なり**》であるので人を育成していくことで、長期的な国家の成長にも繋がっていくと考える。

人材を世界に輩出し、日本の教育制度が次世代の世界の教育システムのモデルとなっていくことを目論む。(参照:図1)

図 1



今の教育界の問題点

現状の教育の問題点として、次のような問題があげられます。

☆学校教育の問題点

- ・学力低下
 - ・子どもの学習への興味、関心の低下
 - ・学級崩壊、校内暴力等の増加
 - ・いじめや不登校等の頻発
 - ・教師一人当たりの仕事量の負担大
 - ・国による教育投資の見直し
- (図 2)

☆家庭教育の問題点

- ・家庭内のしつけの困難化
 - ・内向き志向の常態化
- (図 3)

☆地域の教育の問題点

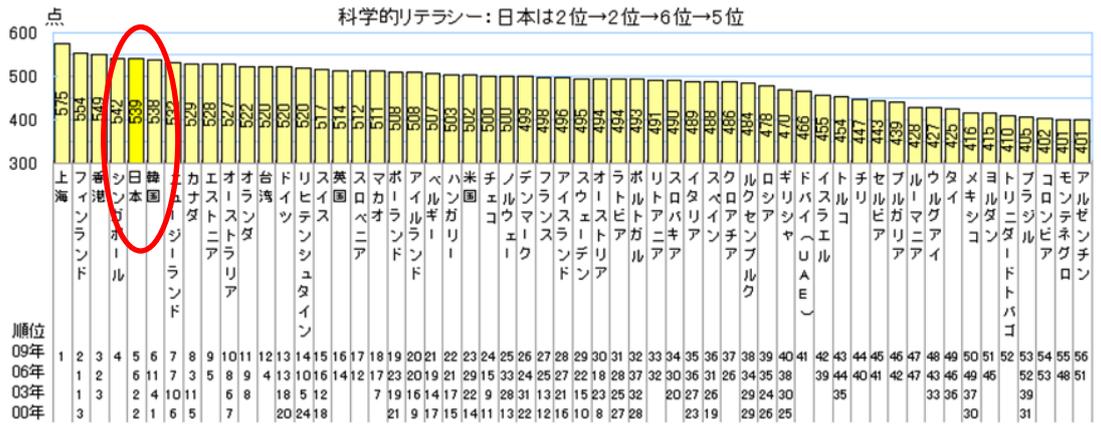
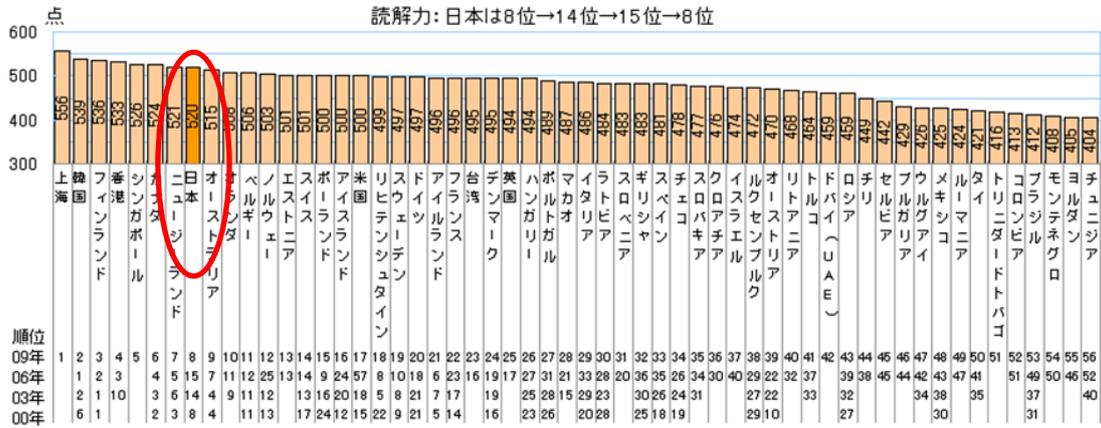
- ・希薄になった人と人との繋がり
- ・郷土文化を知らない世代の増加

☆外国語学習の問題点

- ・学校の授業と社会で求められる語学力の差異
- ・スピーキングの軽視
- ・英語を習得することに対しての社会的現実性が低い

図2

学力の国際比較(2009年)

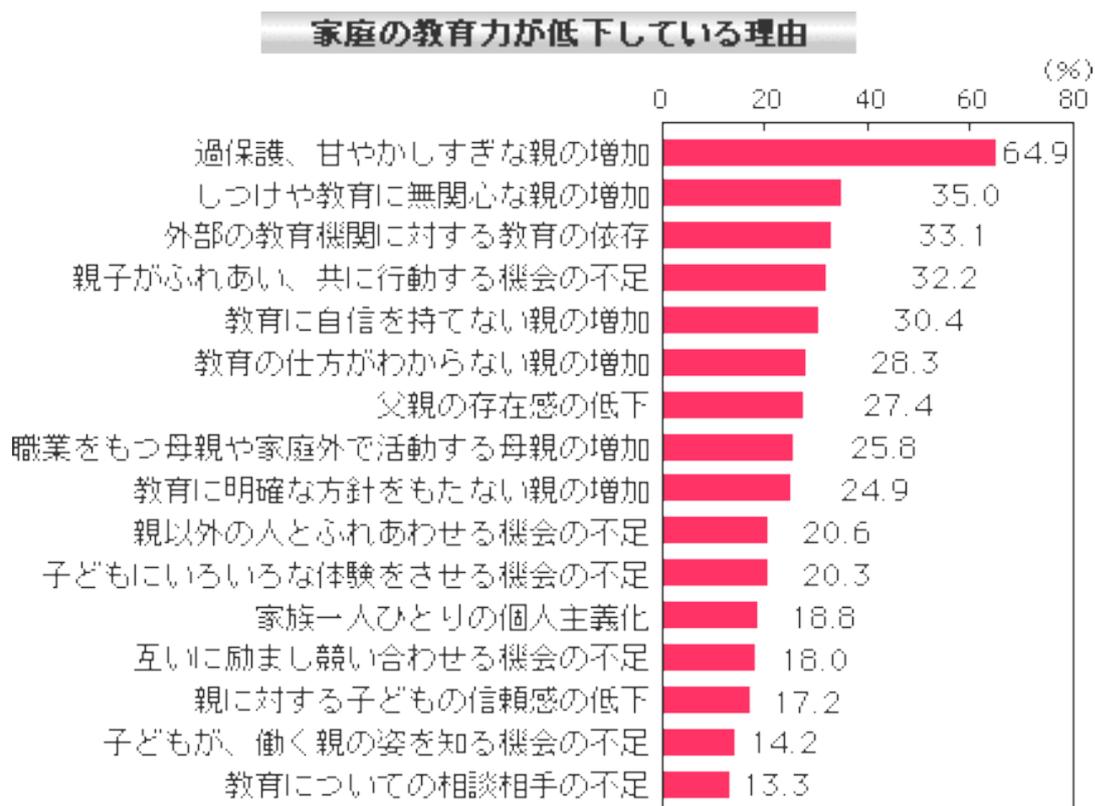


(注)2006年調査は65カ国・地域で約47万人の15歳男女(日本では高校1年)が参加。図では56位までを表示。

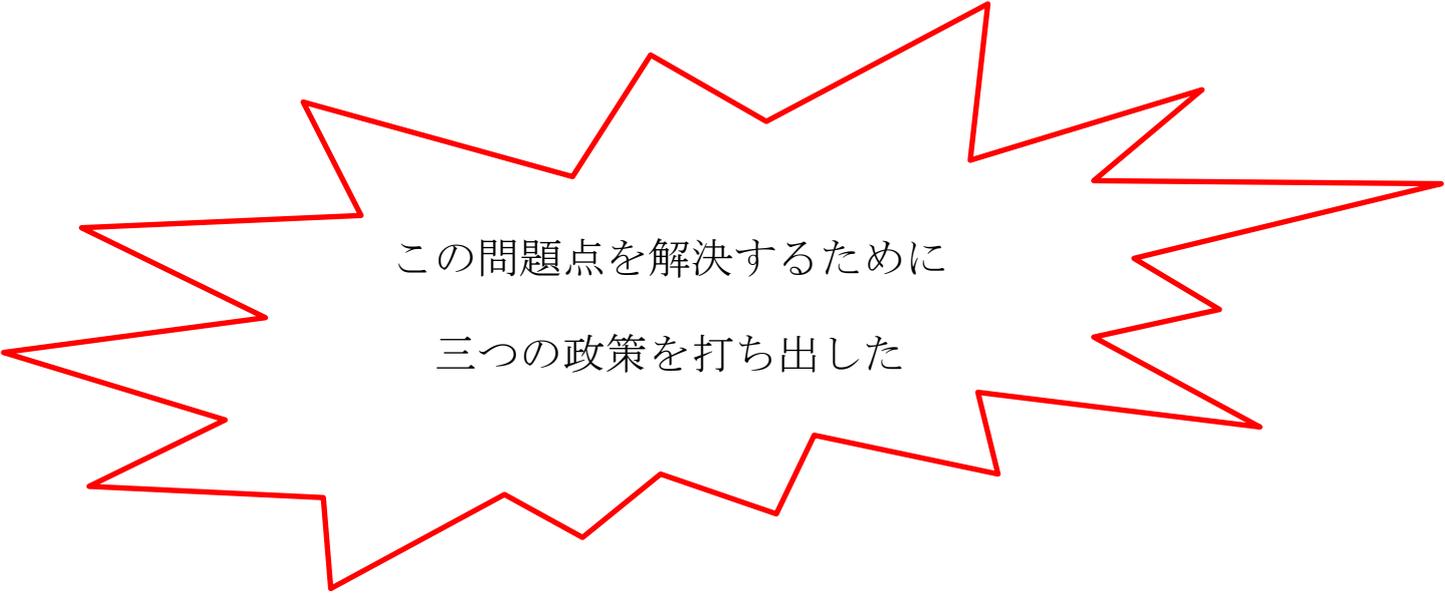
比較対象は00年の31カ国、03年の40カ国、06年の57カ国から増加。

(資料)OECD生徒の学習到達度調査(PISA: Programme for International Student Assessment)

図3



(注) 全国の20歳以上の者約10,000人を対象に調査(複数回答可)。
資料:「青少年と家庭に関する世論調査」1993年・総理府



この問題点を解決するために

三つの政策を打ち出した

TEAM らりつも 重点政策

寺子屋制度

選択実習制度

社会人留学支援法

寺子屋制度

義務教育/地域行政

概要

寺子屋とは、地域の様々な歳の子供が所属する**夕テ**のつながりの共同で、ヨコのつながりの学校のHRとは別に存在する。ここでは児童は人間として基礎的な素養を身につけていく。例えば、礼儀作法・計算能力・漢字等を学び、本を読んだりする。公民館などの施設を使い、個人の理解度に合わせて学習を進めていく。地域の高齢者の方々との交流を深めたり、後ほど紹介する選択実習制度のプレ体験のようなものを行う。結果的に地域共同体の核となる場である。

目的

文字教育と非文字教育の両立をし、現在の教育界の問題に対するの解決策の土台にすること。

※文字教育：読み書き計算等を教える形態

非文字教育：礼儀指導に始まり、集団内での秩序形成などの生活面の指導

背景

なぜ寺子屋制度を導入するのか？

《勉強》

1.学力低下の問題

対策：理解度別に基礎学力の定着を図る

⇒基礎学力の確かな醸成が次の応用力への土台となる

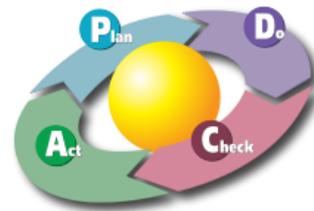
2. 子どもの学習への興味、関心の低下

対策：子供の“わかる”を引き出す

⇒ 寺子屋での習熟度に合わせた授業で、学校では教師に PDCA サイクルを徹底できる環境を整え生徒に飽きさせない授業にする努力を続けさせる

※PDCA サイクル

1. Plan(計画): 従来の実績や将来の予測などをもとにして業務計画を作成する
2. Do(実施・実行): 計画に沿って業務を行う
3. Check(点検・評価): 業務の実施が計画に沿っているかどうかを確認する
4. Act(処置・改善): 実施が計画に沿っていない部分を調べて処置をする



3. 教師一人当たりの仕事量の負担大

対策：寺子屋導入により、学校の先生の負担減

⇒ 学校の先生は小中ともに専科制にし、担当科目のみを教える

⇒ 子どものケアは寺子屋を中心とした地域全体でサポートしていく

4. 英語学習におけるスピーキングの軽視

対策：英語教育の早期導入

⇒ 寺子屋に英語を母語とする講師を呼んだり、歌や踊りをし、楽しく体を使って英語に慣れ親しむ。

《家庭・地域》

1. 家庭内のしつけの困難化

対策：地域で子供を育てる

⇒寺子屋を中心とした地域の人々で子供をしかることができる環境づくり

2. 希薄になった人と人との繋がり・郷土文化を知らない世代の増加

対策：地域交流の場となる

⇒寺子屋を導入することで地域の人々との文化交流が行える

3. いじめや不登校等の頻発

対策：地域共同体での支援し、逃げ場のある社会

⇒寺子屋と学校があることで追い詰められる前に救いの手が差し伸べられる

4. 内向き志向の常態化

対策：多種多様な経験を積み、また地域社会に参入し社会的役割への意識をもたらす

⇒選択実習制度のプレ体験での社会奉仕活動を行う



方法

子供が、上下関係のシステムに幼少期から組み込まれることで、“兄弟子”や“師匠”から礼儀作法を学び、しつけをされていく。また勉強も個人個人がわかるまできめ細かい指導を行い、高度な応用力を身に付けるための確かな基礎学力を定着させる。

先生は、40代以上の経験豊富な先生に研修期間を設け、この制度にたいしての理解を図る。加えて実際に試験期間を設け、あまり理解ができていないものには、再度研修をつませ教員の質の向上を目指す。学校の校舎は従来通りに使用し、寺子屋はその地域ごとの集会場や公民館などの公的施設を使用する。

寺子屋に配属になる先生以外にも、地域の高齢者や、人生経験豊富な人を寺子屋に呼び子供たちに非文字教育を指導する。他に、様々な郷土文化や、芸能などに触れさせる。農業などの一次産業を体験する機会を設ける。このことが後の選択実習制度を選ぶときの参考になることを目論む。

寺子屋での高学年学習形態の例

時／曜	月	火	水	木	金	土
1 時間目	算数		英語		素読	地域 交流
2 時間目	読み書き			読書	知的遊戯	
3 時間目	体育	家庭科	図 工	社会	理科	
4 時間目		理科		国語	音楽	
5 時間目	社会	国語	家庭科	応用算数	体育	
6 時間目	音楽	クラブ		委員会	社会	

※ 1 原則的に今の中休みとされる時間に寺子屋から学校に登校する。

※ 2 計算と読書を毎朝10分行う。

※ 3 素読…古典を意味する

試算

●寺子屋上限 4 兆円

●教員育成費

全国の子どもの数(5歳から16歳):教員≒およそ20人:(1×5)
100万・教員X=20人・5人

候補教員=2.5万人に

●寺子屋制度導入及び義務教育制度改革研究委員会を設立。(寺義研)
いわゆる有識者や様々な立場の義務教育専門家、学者、元教員などで
構成される20人程度の特別委員会。

●政府が教育委員会との協議のもと20人程度、任命する。

20人×500万=1億円

2.5万人研修→1000人の教員育成員

月30時間の研修×時給2000円×12ヶ月

72万×1000=7.2億

7.2億×5年分=36億

結果

幼少期から多角的な価値観に触れることができ、その後の応用力の発達に貢献する。また、人と人の繋がりや再構築ができ長期的スパンでの地域復興に貢献することができる。加えて、地域で子育てをする。そして、地域の中で育つといった文化が根付き、保護者の負担軽減にもなり、ある程度の少子化対策にも繋がっていく。

～選択実習制度～

教育・文化／雇用機会

概要

高校卒業後一年の間、あらかじめ設定された選択肢のなかから本人の自由意思によって選んだ分野の実習を積むという制度。まず、その前段階として、入試の時期は変えず秋入学とし、空白の期間を設ける。この秋入学で国際化にも対応する。この制度は原則として大学入学の必須要綱となるので、大多数が高校卒業後の一年で実習を受けることとなる。また、難関とされる国立大学での入学試験成績上位者には無償で留学を行えるという特別な選択肢も設ける。

説明

1. 芸能

演劇（能/狂言/歌舞伎/文楽）

舞踊（日本舞踊/神楽/田楽/猿楽/白拍子/延年/曲舞/上方舞/念仏踊/盆踊）

音曲（雅楽/義太夫/常盤津/地唄/長唄）

演芸（落語/講談(講釈)/浪花節(浪曲)/奇術/萬歳/俄/女道楽/大神楽/紙切り）

芸道（茶道/華道/武芸/書道）などの日本伝統芸能に触れる

2. 奉仕

国内外ボランティアやNPOの活動の支援、介護、清掃活動

3. 一次産業従事

農業、林業、水産業などの一次産業に従事

4. 自衛隊訓練

陸上自衛隊に仮入隊

5.留学

成績上位者に無償で語学研修を受けられる

目的・理由

<芸能>

目的

日本文化の継承、振興

理由

グローバルな世界になり移民も増えて行くという情勢の中で、新たな日本国民にも日本の伝統を知り、体得する必要性があるから

<奉仕>

目的

成人する前に、社会に貢献することの意味を感じさせるため

理由

豊かな人間性・社会性を培うことできるから

<一次産業>

目的

産業基盤の活性化

理由

現在サービス産業が活性化しているが、今後の世界情勢を考え、食糧自給率の向上を促進するのは急務である。

<自衛隊訓練>

目的

自ら国を守るという意識を促す。

理由

グローバル化する社会で国という意識を取り戻すと同時に、隣国の無制限な軍備拡張に国民としての危機管理を抱く必要性があると感じた。

<留学>

目的

エリート人材に海外を知ってもらう。

理由

近年、欧米の大学に留学や在学しているアジア人の中で日本人の数が少なくなっている。だから日本人のエリート層にも、外を知る体験をしてもらうためである。



図 ハーバード大学の留学生数

順位	国名	留学生数	総人口	〇〇〇人に1人 (総人口÷留学生数)
1位	カナダ	489	3200万	65440
2位	中国	400	13億	3250000
3位	韓国	297	4900万	164983
4位	インド	216	10億	4629630
5位	英国	201	6000万	298507
6位	ドイツ	158	8200万	518987
7位	日本	127	1億2700万	1000000
8位	台湾	117	2300万	196581
9位	トルコ	90	6900万	766667
10位	メキシコ	83	1億500万	1265060

<http://www.dokkai.com/wordpress/2008/01/07/harvard-int02/>

試算

大学入学者が約60万人

例 ① 2 ② 3 ③ 3 ④ 2 ⑤ 0.1

伝統芸能⇒文教及び科学技術振興費から支給 1200億円支給

計算式

$$12 \text{ 万人} \times 100 \text{ 万円} = 1200 \text{ 億円}$$

奉仕⇒公共事業費から支給 900億円支給

計算式

$$18 \text{ 万人} \times 50 \text{ 万円} = 900 \text{ 億円}$$

第一次産業⇒公共事業費から支給 1800億円支給

計算式

$$18 \text{ 万人} \times 100 \text{ 万円} = 1800 \text{ 億円}$$

自衛隊訓練⇒防衛費から支給 1800億円支給

計算式

$$12 \text{ 万人} \times 150 \text{ 万円} = 1800 \text{ 億円}$$

留学⇒文教及び科学技術振興費から支給 300億円支給

計算式

$$\text{成績上位者 } 6000 \text{ 人} \times 300 \text{ 万円} = 180 \text{ 億円} + \text{諸経費 } 120 \text{ 億円} = 300 \text{ 億円}$$

まとめ

全体的に人手の少ない分野にテコ入れをし、職業選択の機会拡大を目指す。また、選択肢も民主的な方法での要請があれば、拡充を検討して行く。

社会人留学支援法

概要

入社6年目以降から50歳以下の社会人海外語学留学を、政府が環境提供、資金援融資という形で支援する制度。試験などで、語学力の査定をして能力によっては研修内容を増やすなどをし、各言語別に国が提携した海外研修所で12ヶ月の語学研修を積んでもらう。帰国後の能力や成果によって、補償金額を決めると共に、スキルの維持上昇を狙う。数値目標として3万人の送り出しを目指す。

また送り出すだけでは国際化に対応していることにはならない。日本社会にも外国人と気軽に接することが出来る社会の形成を目指す。その初段階として英語を母語とする外国人1万人を誘致することを目指す。

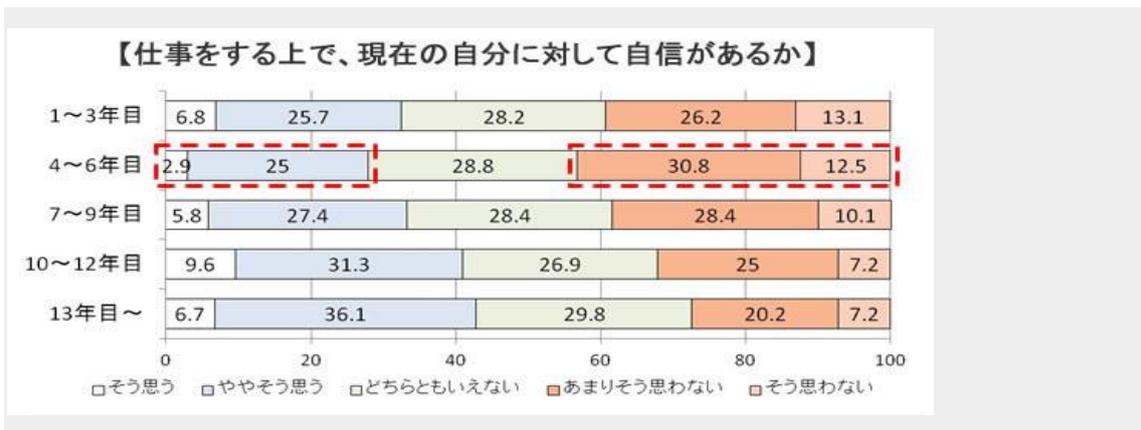
目的

部長級未満の能力をもつ人間の国際競争力上昇
英語の日常化

背景

なぜ、入社6年目からなのか

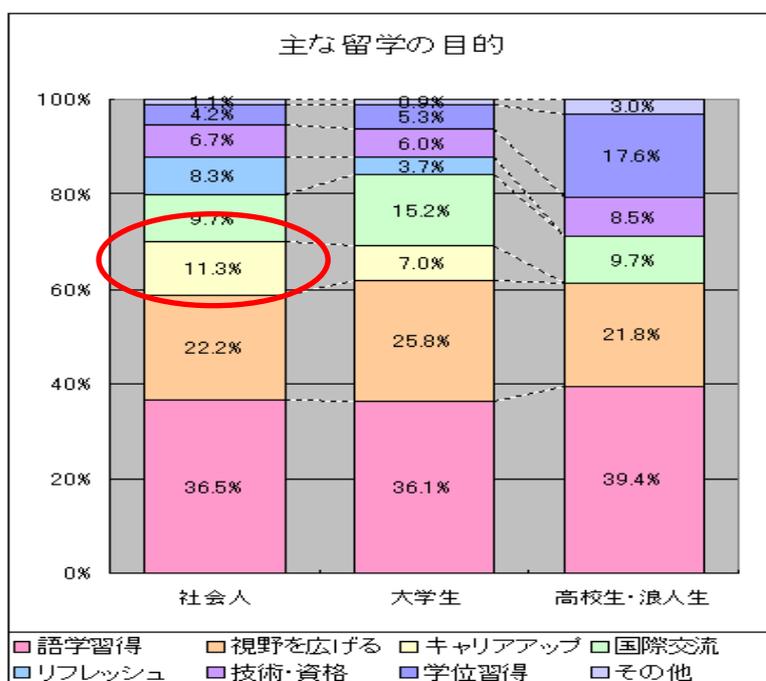
新人時代は成長実感を得やすいのに比べ、4～6年目といえば、新卒気分から脱し、自らが先輩となって後輩に指導しなければならない立場。教えを乞う立場から徐々に自分で判断しなければならないことも増え、それまでとは違う仕事の大変さを感じることも多いだろう。入社6年目までの社会人は、初めて“先輩“であることを求められるとき、これまで思い描いてきた「理想の先輩像」と「現実の自分」を比べ、自信を失ってしまうビジネスパーソンは少なくない。『自分は何をしたいのか』を見失いやすく、モチベーションのよりどころがないと感じている。今回の調査結果からわかるとおり、ビジネスパーソンの4～6年目は「自信喪失」の時期ということがみてとれる。そこで私たちは入社6年目以降の区切りの良い段階での世代に海外留学を勧める。



<http://diamond.jp/articles/-/22305?page=2>

《急速な国際化による語学力習得への動き》

現在国際化が進むなか、英語の必要性が常に叫ばれ、また学生時の留学や外国語教育の強化が進められている。少子高齢化による人口減少から国内での消費成長の見込みは薄く、海外市場に目を向けざるを得なくなっていると言える現在の日本。海外進出や新卒の外国人採用など、日本企業のグローバル化は進みつつある。その為、国際的な業務の拡大や外資系の企業の増加に伴い、仕事に語学が求められるケースの増加してきている。



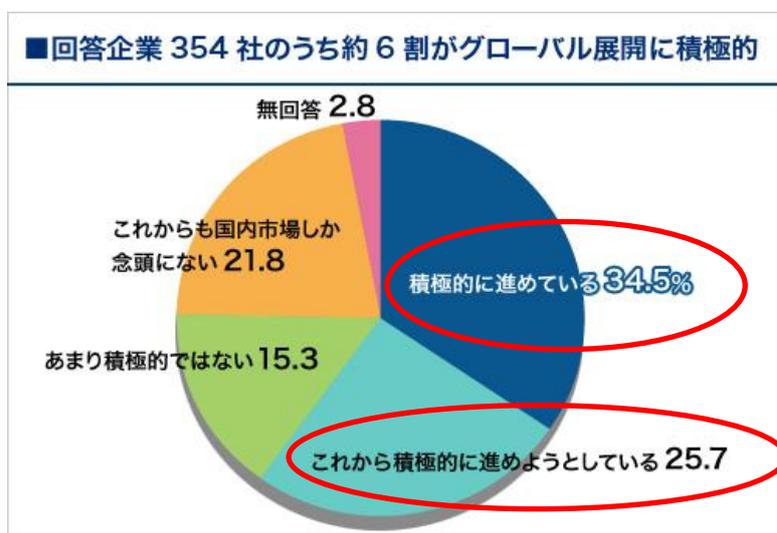
<http://allabout.co.jp/gm/gc/58250/2/>

社会人に注目をしてみると、「キャリアアップ」(11.3%)が3番目。近年、語学+αコースやインターンシップの人気の高まっているのは、語学だけでは評価されないことを実感しているせいかもしれない。転職や独立の可能性も視野に入れながら、自分のキャリアプランにあった実践的なコース選択をするのは、社会人ならではの傾向であるといえる。

《 留学資金の融資 》

留学できるほどお金に余裕のある若者だけがグローバル人材への道を進めるのではなく、国内でもその選択肢を用意すれば、その人材の質も量も充実する。

《 「内向き」志向気味な日本企業や大学、日本社会 》



日経 BP ビジヨナリー経営研究所が上場企業の経営者に実施した「企業のグローバル化と人材育成に関する調査」の集計結果がまとまった。回答企業 354 社のうち 34.5% が「積極的にグローバル化を推進している」、同 25.7% が「これから積極的に推進しようとしている」と回答した。両者を合わせると、6 割を超える。

■354 社中「海外からの留学生や外国人従業員のキャリアプランは既にある」企業は 6.5%しかない

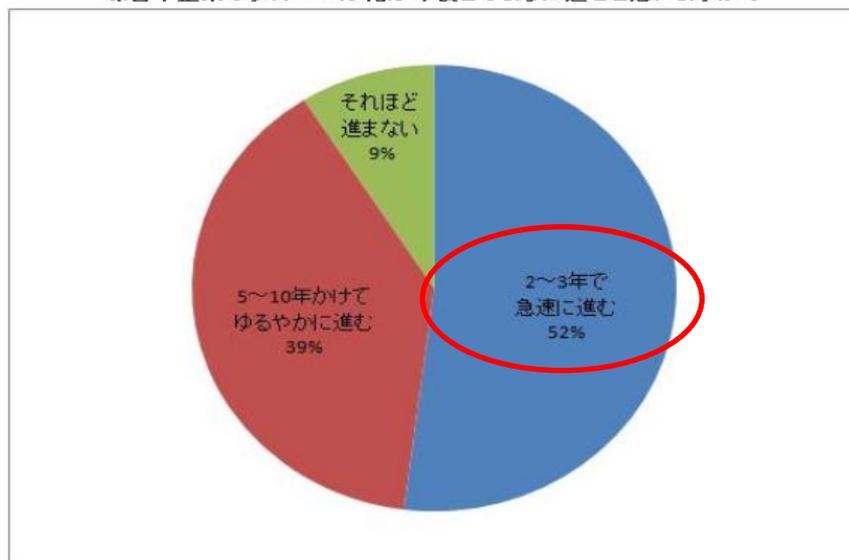


<http://business.nikkeibp.co.jp/article/world/20111228/225725/>

「日本採用の留学生や外国人従業員のキャリアプランは既にある」と回答した企業は 6.5% しかない。「現地採用の外国人従業員に対するキャリアプランは既にある」と回答した企業も 1 割以下 (8.2%) だった。

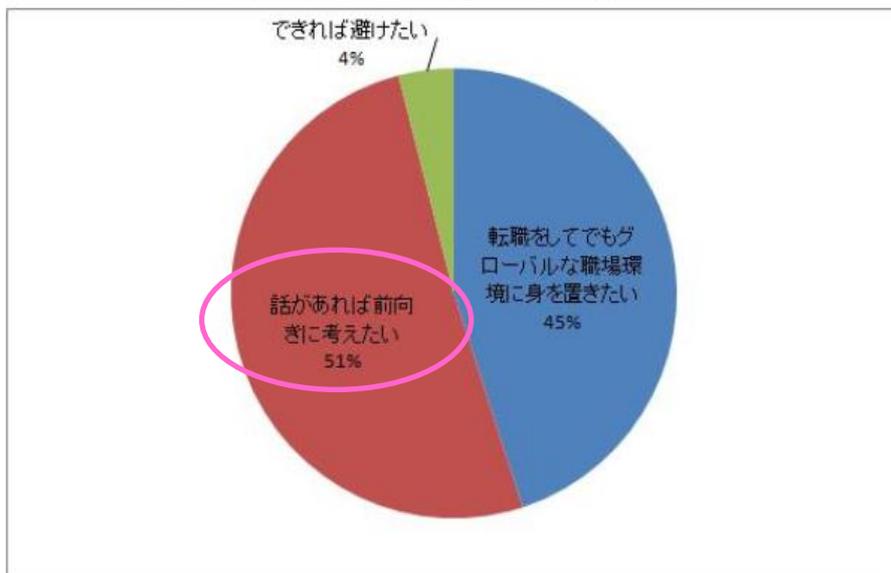
《日本企業で働く社員の意見》

Q.日本企業のグローバル化は今後どのように進むと思いますか？



日本企業のグローバル化は今後 2~3 年で急速に進むと答えた人が半分以上の 52% いる。

Q.グローバルな環境で働くことをどのように考えていますか？



グローバルな環境で働くことをどのように考えているかについて半分以上の人が「話をあれば前向きに考えたい」と思っているだけで、実際に行動に移せていないという状況であることがわかる。

Q.グローバルで活躍できる人材になるために必要と思われるスキルは何ですか？

順位	必要なスキル	割合
1	問題解決力	70%
2	メンタルタフネス	58%
3	専門技能・専門知識	48%
4	リーダーシップ	47%
5	プロジェクトマネジメントスキル	39%
6	リサーチ・分析力	19%
7	会計力	5%

70%が「問題解決力」が必要だと答える結果になった。マニュアル通りに実践することや暗記することが得意と言われる日本人には、足りない指摘されることの多い問題解決力。我々には不足しがちなこの力がグローバル人材には必要であることが分かる。

Q.グローバルな舞台で活躍するとき、日本人であることが武器になることは何だと思いますか？

順位	武器になること
1	勤勉であること
2	きめ細やかであること
3	誠実であること

<http://news.livedoor.com/article/detail/5825811/>

まじめで勤勉な姿勢、きめ細やかな“おもてなし”の心、マナーや約束、規律を守るという誠実さといった、日本の国民性とも言えることが武器＝強みになるという結果になった。

方法

まず、応募者には英語力を客観的に測る試験を受け、学力基準に満たない者には国内で政府推奨補助の語学研修所で、2か月間の事前研修を経てから再度試験に望んでもらう。また基準を満たした者ともに、次の1か月間の国内研修を受講し、安全対策なども行う。その際、レポート提出の義務を課すことでさぼり対策。また、定期的にTOEFLやIELTSなどのテストの受験を義務付けることで英語能力の維持し、地元の寺子屋の英語教育のアシスタントティーチャーなどをし、会社の後輩や先輩に対してもフィードバックをしていく。

対象

やる気や意思のある者、自ら進んで留学を望んでいる者で、全企業の入社6年目から50未満の部長級未満の者。



試算

●留学費

900 億円 3 万人×300 万(1 年間の留学)

国内研修費用 通常研修 3 万人

講師 1000 人×10 万/月 = 1 億円

事前語学研修 2 か月 推定 1 万人

(1000 人×2) × 1.5 万/月

= 3 億×2 か月

= 6 億円

その他諸経費 1.5 億円

合計

900 億 + 1 億 + 6 億 + 1.5 億

= 908.5 億円

●外国人誘致

年収 1 万人×1000 万円×10% = 100 億

住宅費 1 万×15 万円/月 = 15 億

諸経費 1.5 億円

合計

116.5 億円

●総計

908.5 億 + 116.5 億 = 1025 億

まとめ

グローバルに活躍できる人材を目指すことが、今後日本企業で活躍するには大切だと言える。経営者ではない存在も国際化に対応できるように、まず、第一関門である言語の習得が必要。自ら率先して学びを望む人には政府が環境設備、資金援助という形で機会を提供し、意識の高い社会人を支援するという制度。

●財源

社会保障費の削減

- ・年金受給年齢引き上げ
- ・年金受給額の引き下げ
- ・選択実習制度における介護分野に
人材確保による福祉・介護費の削減

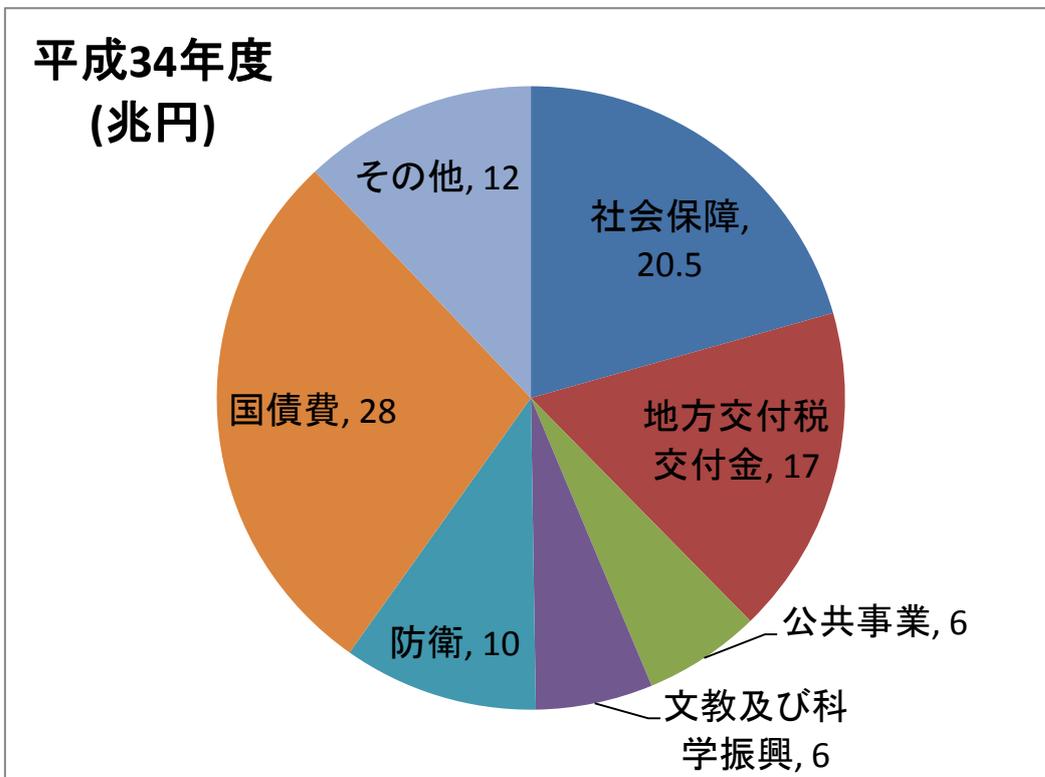
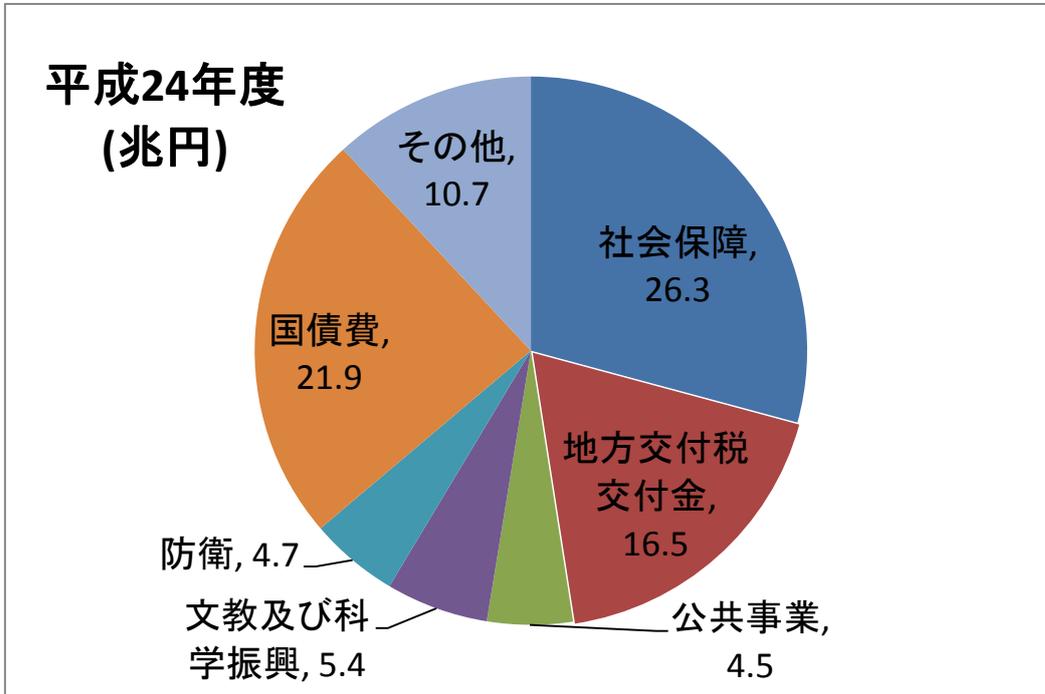
⇒年金受給年齢を75歳まで引き上げることによって、社会保障が6兆円減る計算だ。将来の世代に負担を残さないために財源を確保することが出来ると考えた。自分たちで科してきた借金を自分たちで少しずつ返していくことは日本国民としての義務である。また、教育に関する改革に資金として投資する。

教育公債の発行

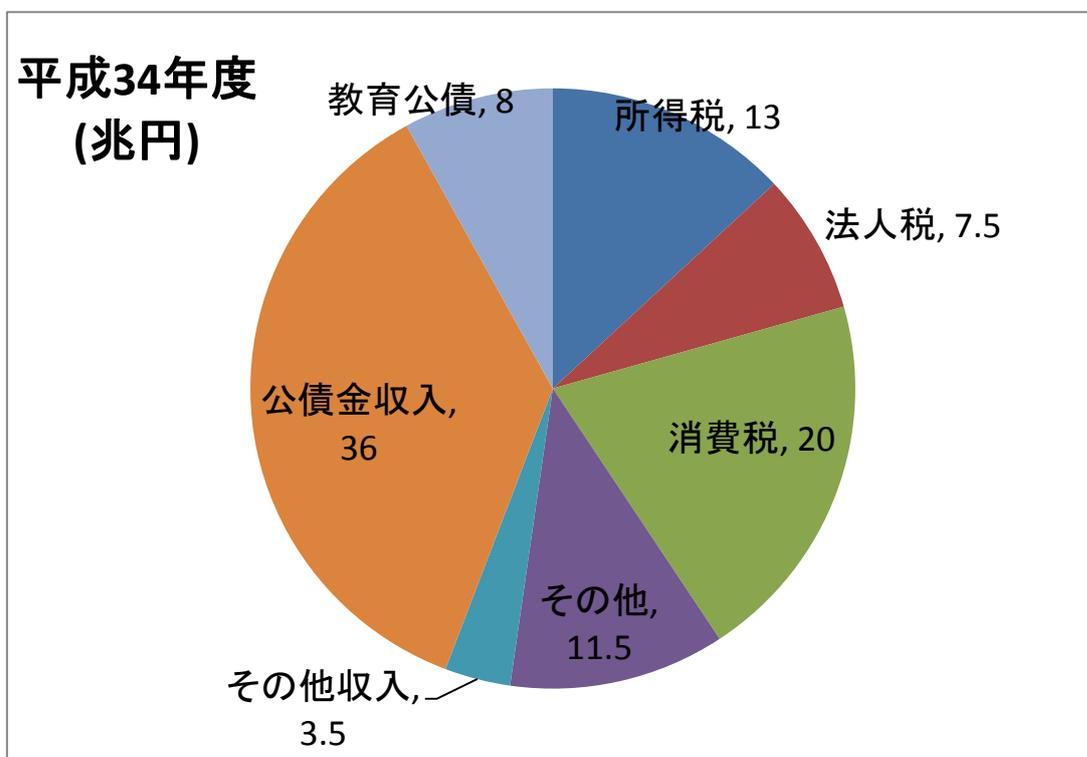
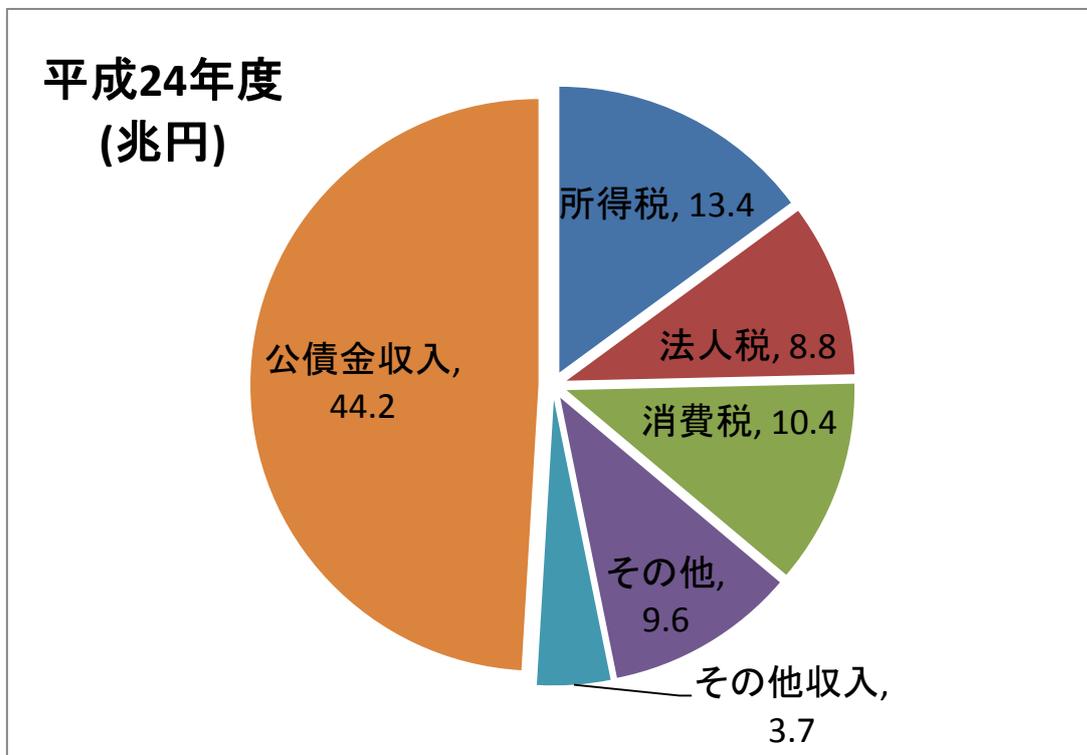
- ・寺子屋制度・選択実習制度・社会人留学支援法に充てる
- ・建設公債と同じく利益を被るのは現役世代だけではなく、将来世代も得るものがあるので世代を超えて負担することに違和感はない
- ・同じ借金でも使用法の限定により、無駄な使用を防止する

予算

予算 (歳出99.5兆)



予算 (歳入 99.5兆)



終わりに

以上様々な文言を述べてきたが、詰まるところ私たちは、どういう人材を育て、どう言う国にしたいか。その事をここに記す必要がある。

人間として安定した基礎学力に基礎的素養を持ち、人格の土台を確かなものにし、そこから生じる深い思考力を用いることができる。その能力に多種多様な経験を注ぎ、個人個人の持つ特性を生かして地域や社会、“日本”に貢献していくことが出来る人材の輩出をする。

また、彼らは年上を尊び年下を慈しむ精神を共有し、金銭的補償の乏しくなった社会で互助の思いやりの気持ちを生かし、行動に移していくような事が出来る。

そして、そのような人が社会に満ち溢れることで、地域で子育てをし、地域の中で子が育っていく。皆で皆を慮る。官民を問わず、歳の老若を問わず、国籍の如何を問わず、互いが互いの為を思い共存し、自分の出来ることを出来る形で行い、社会運営をしていく。

私たちは30年後そのような国に生きていると確信している